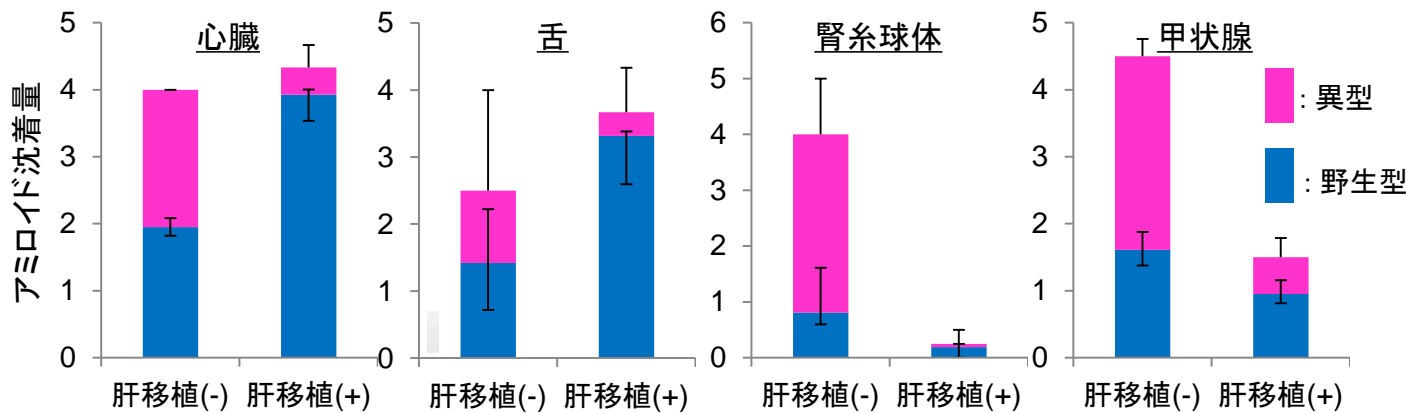
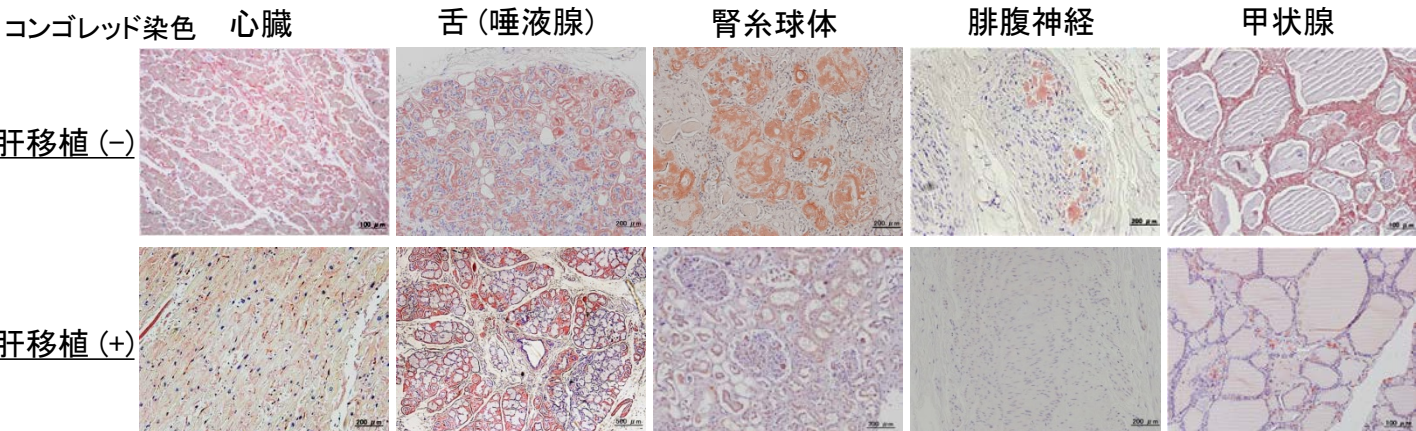


肝移植後のFAP患者における組織沈着アミロイドの病理組織学的特徴と生化学的検討

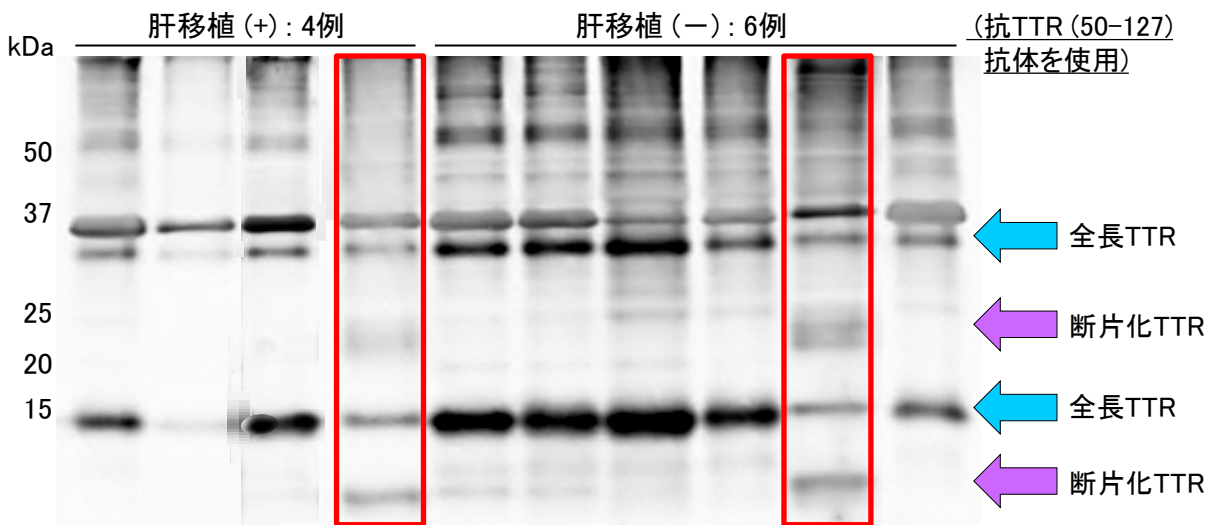
- 1) 熊本大学大学院生命科学研究部神経内科学分野
- 2) 熊本大学医学部附属病院アミロイドーシス診療体制構築事業
- 3) 熊本大学大学院生命科学研究部小児移植外科学分野

安東由喜雄¹、○大嶋俊範¹、植田光晴¹、川原理美¹、山下太郎¹、三隅洋平¹、田崎雅義¹、神力悟²、大林光念²、大矢雄希³、阿曾沼克弘³、猪股裕紀洋³

組織沈着アミロイドの量と構成成分の変化



組織沈着アミロイドにおける断片化TTRの検出



肝移植後長期経過したFAPの病態を検証するために、FAP 4例（肝移植後、長期生存例）の剖検例を肝移植未施行の剖検例と比較検討した。

肝移植施行例で、心臓、舌など一部の臓器で野生型TTRが主体の重度のアミロイド沈着を認めたが、腎臓、甲状腺など大部分の臓器のアミロイド沈着は肝移植未施行例と比較し、軽度であった。

肝移植後長期経過したFAP患者の病態は、肝移植未施行FAP患者の病態とは異なっており、その違いをさらに検証することでアミロイド沈着機構の解明につながるものと考えられる。

また、断片化TTRは肝移植施行例にも未施行例にも認められ、その病態への関わりの検討も、今後の課題である。